

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500212
法人名	新居浜医療福祉生活協同組合
事業所名	あったかほむ たかつ
所在地	新居浜市高津町3番20号
自己評価作成日	平成25年12月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自立支援をモットーに手を出し過ぎない介護を心がけている。
今後、重度化や看取りにも対応できる様に研修や他方面との話し合いを持ち、事業所としての力をつけて行き、利用者・家族も安心できるように努めている。
近所の方も気軽に食事やおやつと一緒に食べられる楽しい雰囲気作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所に併設するキッチン付きの交流室「縁がわ」を地域の方達に開放されており、利用する方が利用者の誕生会のケーキを焼いてくださることもある。又、パンを焼いたり、カレーを作ったりする時には、利用者も一緒に楽しむこともあるようだ。近所の方が野菜をおすそ分けしてくださったり、一緒に下ごしらえをしてくださることもある。又、利用者と一緒に新聞でゴミ箱を折ったり、時には兜を折って利用者の頭に寄せ、利用者とお話を楽しんで帰られることもある。

今年度から、利用者一人ひとりの「思い出のふるさと訪問」の取り組みを始めておられる。利用者から通っていた小学校の話題が出たら、その小学校に出かけてみたり、以前に住んでいたアパートに行ってみる等して支援されている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 あったかほーむ たかつ

(ユニット名) 1階・2階

記入者(管理者)

氏名 伊藤 道子

評価完了日 平成25年 12月 17日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 今年度職員全員で理念について話し合いを行った。理念の変更に伴い、皆で共有し実践につながるよう努めている。	
			(外部評価) 今年度、職員全員で理念の見直しが行われた。4月頃から職員全員がそれぞれに理念を考え、持ち寄って検討し、10月に新しい理念を「感謝の心を大切に いつも笑顔 真心こめて 和やかな暮らしが出来るように 支援します」とつくられている。理念は、玄関や廊下に掲示し、職員会議開始時に読んだり、又、職員がよく使用する机の前に立てかけておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近所の方が花や野菜を持ってきてくれたり、時には利用者と一緒に食事等している。また、ワークキャンプやボランティア訪問・消防・学校関係を通じて交流が広がっている。	
			(外部評価) 事業所に併設するキッチン付きの交流室「縁がわ」を地域の方達に開放されており、利用する方が利用者の誕生会のケーキを焼いてくださることもある。又、パンを焼いたり、カレーを作ったりする時には、利用者も一緒に楽しむこともあるようだ。近所の方が野菜をおすそ分けして下さり、一緒に下ごしらえをして下さることもある。又、利用者と一緒に新聞でゴミ箱を折ったり、時には兜を折って利用者の頭に寄せ、利用者とお話を楽しんで帰られることもある。管理者は、今後小学校の文化祭等、利用者が地域に出かけて行くことにも取り組みたいと話しておられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議にて議題に取り入れ、話し合いを行った。また、地域の人が家族の相談に来ることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で出た内容を職員で話し合いを行い、防火訓練などを取り入れ、次のステップに向けて取り組めるよう活かしている。	
			(外部評価) 会議は、利用者やご家族、市職員、民生委員、消防団員、地域の方が参加されており、参加者の駐車スペースが確保できるよう、隣接病院が昼休みの時間に合わせて開催されている。地域の方から「認知症になった時のための勉強会をしてほしい」等の意見があり、議題に採り入れ行われたこともある。又、認知症に関する新聞記事を持参されて話し合ったり、「もっと知っておきたいから他の施設の見学に行きたい」等の意見も出されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に出席して頂き意見交換を行っている。目線が違くと見方も違い、参考になる事が多くある。	
			(外部評価) 市からの依頼で、市内の中・高校生の2泊3日のワークキャンプを受け入れておられる。生徒は利用者と一緒にゲームをしたり、お風呂から上がった利用者の髪を乾かしたりして、利用者と一緒に過ごされた。利用者の中には、お孫さんのことを思い出して、話される方もおられたようだ。運営推進会議には市の担当者の方が参加していただき、外出支援の話題の折には、「近くコンビニまで出かけてコーヒーを楽しんではいかがか」等の提案をいただいた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 当事業所では身体拘束はしない事に徹底している。身体拘束の研修会に参加し、報告を再度行い、なぜいけないのかについて話し合いを行った。	
			(外部評価) 昼間は玄関を施錠していない。調査訪問時、利用者がひとりで外に出かけていく様子がみられ、職員はあとから利用者をそっと追って出かけていかれた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し、報告書を提出している。 それを基に「虐待とは何か」について職員間で話し合いを行っている。 言葉の虐待についても話し合いを行い、理解し、意識を共有することに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 認知症劇に参加して、学ぶ機会を持ち、再確認する事で話し合いを行った。 権利擁護の研修(泉川)に参加するようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用開始前に文書を発行し、一人ひとりに説明を行い確認している。 遠方の家族には電話連絡のうえ、郵送や帰省時に確認して行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族には行事・イベントなどの参加の呼びかけをしたり、普段の生活の様子を見てもらっている。 利用者本人との会話の中から意見や要望を聞き取り反映できる様に努めている。 (外部評価) 毎月のご家族への送付書類とともに、ご本人の様子、行事報告と写真、運営推進会議議事録、食事内容、外出時の写真等を同封されている。事業所からの報告を受けて、ご家族の中には、以前のご本人の様子と現在の様子の変化等話して下さる方もいる。「家族会」は、運営推進会議と併せる等して、年2回開催されており、4～6名の方が参加されている。	管理者は、今後、遠方に住んでいるご家族からも意見や要望を聞けるよう、取り組みたいと考えておられた。今後さらに、いろいろな場面を捉えてご家族の知りたい情報を探り、発信に工夫されてほしい。又、ケアサービスへの要望をうかがいながら、事業所のサービス向上への取り組みにつなげていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月第1月曜に職員全員・介護部長、必要があれば本部より担当者に参加してもらい運営会議を行っている。 意見交換を行い、業務に活かしている。	
			(外部評価) 職員は、外部研修によく参加されており、向上心を持って日々のケアに取り組まれている。又、日々利用者とかかわる中から介護用品等についてご家族に提案等しており、ご家族が準備してくださることもよくある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 毎年1回契約更新時に面接を行い話し合える機会を持っている。 意見や要望が出たときは話し合いを行い、向上心をもって働けるように対応している。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 地域密着の研修はもちろんの事、法人内の研修報告会にも参加し、大勢の前で発表する機会を作っている。 他事業所の発表を聞き、参考にしている。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着の研修に参加したり、他事業所の運営推進会議に参加し交流する機会を持っている。 法人内でも月に1回意見交換する機会をもち、出た内容を共有出来る様に努めている。	
			(外部評価)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時より、なじみの家具、写真などを持ち込み安心して生活できる居場所に努めている。 利用者個々に声掛けし傾聴する事によって不安な事や要望等を早く察知出来る様に努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所条件等事前に説明、不安な事や要望等に傾聴の上、家族の思いや本人の希望を聞き、関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族がその時点で最も必要としている支援を職員全員が把握し、リハビリ等他サービス利用も行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個人の状態に応じて出来る事を職員と利用者が一緒に行う関係を築けるように努めている。 利用者が出来る事は自分で行ってもらよう支援している。 (洗濯たたみ、部屋の掃除、花の世話、調理の下ごしらえなど。)	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族が来た時に日常の様子等を伝えるようにしている。 時には職員も話しの場に参加させてもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入所前から利用していた理美容院、病院等馴染みの関係を大切にしている。 また、親戚の方がずっと散髪してくれている利用者の方もいる。	
			(外部評価) 今年度から、利用者一人ひとりの「思い出のふるさと訪問」の取り組みを始めておられる。利用者から通っていた小学校の話題が出たら、その小学校に出かけてみたり、以前に住んでいたアパートに行ってみる等して支援されている。お花見したことがある公園の話が出たことをきっかけに、昨春は、その利用者の方と、その公園へお花見に出かけてみられた。かかりつけ医への受診時、顔見知りの方に会い、声をかけてもらうようなこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 体調や気分等状態に合わせて席を移動したり、レクリエーションや食事の時、席を変えて変化をもたらし利用者同士が関わり合えるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて情報を提供し生活に少しでも連続性が持てるように工夫している。 契約終了後も何時でも来所してもらえるよう声かけを行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 思いを伝えるようになってきている利用者もいる。その人らしく日々を暮らせる様に担当を決め把握し、職員と共有し、対応に努めている。 (外部評価) 職員は、日々の利用者の様子を「気づきノート」に記入して、職員全員で共有するようになってきている。	管理者は「もっと利用者の細かい事に気を付けて観察しながら気づきノートを記入し、職員同士の連携を密にしていきたい」と話しておられた。理念の実践を目指して、利用者一人ひとりの暮らし方や希望についての情報収集に工夫して、支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や知人が尋ねて来た時に新しい情報やエピソードを聞く事が出来ると、記録に残し、職員が共有できるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入所時よりは体調や認知度にも変化があるが、1日の生活や過ごし方の様子を観察して、今を楽しく過ごして頂ける様に体力維持や心のケアに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的モニタリングを行い、ケアに活かしている。また、困難な事が起こった場合は話し合い・相談し、家族の意見を取り入れ、皆の意見を参考に介護計画を作成している。	
			(外部評価) 介護計画書は、3ヶ月ごとにモニタリングを行い、6ヶ月ごとに見直しておられる。ご本人やご家族の希望のもと、管理者、計画作成担当者、事業所の看護職員、担当職員、時には調理職員も参加して、介護計画について話し合われている。ご家族が「私も手伝います」と言ってくださり、外出支援を目標に挙げているケースもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々のケアの実践や気づきを記録している。毎日ミーティング・引継ぎを行い、前日の変化や注意点を話し合っている。必要な事は気づきノートに記入し、介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の体調の変化があった時は家族に連絡を取り、家族が対応出来ない時はその方のニーズに合わせて事業所にて対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 月に数回デイケアのプログラムに参加したり、当事業所にボランティアの方による慰問などで楽しみが得られる様に努めている。 近所の方の訪問や交流室「縁がわ」に来ている人達と交流を持ち楽しく過ごせる様に支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所時より主治医はほとんどの利用者がそのまま継続している。 家族の受診対応が困難な時は事業所看護師が対応している。 また、急な体調不良な時は家族に知らせ、早期受診を行っている。	
			(外部評価) ほとんどの利用者がかかりつけ医で受診されており、ご家族が事業所の看護職員が付き添い、支援されている。定期受診で変わったことがあれば、ご家族に報告をされる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 体調の記録を記入し、看護師、介護職員共に共有し、変化があった時は早期受診している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院となった時は情報の提供を行い、お見舞い等にて安心して治療が受けられるように支援を行っている。 また、退院時は病院より情報を得て、主治医に伝え連携を取り、良い関係作りに努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合や終末ケアについては、家族と話し合いを行っている。 また、家族の支援が必要な事や職員も研修を重ね、質の向上に努めている。	
			(外部評価) 昨年、終末期のあり方について、ご家族の希望を聞き取りされた。ほとんどのご家族が、「最期までここで見てほしい」と要望されたようだ。事業所では、これまでに看取り支援の事例はないが、今後さらに、主治医と連携を図り、「終末期に向けての支援」に取り組むことをご家族に伝えられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修会参加や学習会を開き、対応について話しあっているが、全ての職員が慌てず対応出来る様に定期的に訓練を行い、安心して生活できるように支援している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行っている。 地域の消防団長や近所の人達に参加してもらい、意見や助言を得ている。	
			(外部評価) 1年に2回、消防署の立ち会いのもとで、避難訓練を実施しておられる。9月には夜間想定 of 避難訓練を実施された。地域の方も2名参加していただき、避難場所となっている敷地内の診療所正門まで利用者を誘導して見守りをされた。緊急時には、地域の2名の方の携帯電話へ連絡して、協力を得るようになっている。消防の方からは「いざという時に慌てないために、通報訓練を2ヶ月に1回は行った方がよい」とアドバイスをいただき、定期的な実施に取り組まれている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 誇りやプライバシーを優位し、一人ひとりの人格を尊重した呼び方や言葉かけ、対応に毎日気をつけて、利用者が笑顔で生活できるように努めている。	
			(外部評価) 職員は、利用者に声をかける時にはご本人の後ろから声をかけるのではなく、顔を見て笑顔で行えるよう気を付けておられる。浴室の着替え場所には、パイプハンガーに大きなバスタオルを掛け、パーテーションをつくって目隠しにされていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々、利用者とは話し合いを行い、思いや希望を読み取る努力をし、安心して自分の希望を伝えてもらえるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の希望に耳を傾け、日々楽しく笑顔で満足して過ごせるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分で決めれる利用者には自分で選んでもらい、出来ない利用者はその方に合わせて選んでいる。 散髪、爪きりを定期的に行っている。 また、毎朝髪を整え、ヒゲ剃りを行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々の好みや苦手な食材を把握し、時折利用者に食べたい物を聞き、献立に取り入れている。 色彩や盛り付けに工夫し、食欲が出るように努めている。 体調や様子を見て、一緒に料理することもある。テーブル拭き、おぼん拭きなど、出来ることは一緒に行っている。	利用者と一緒に食事をつくったり、おいしい食事を楽しむ支援は、グループホームの支援の特徴でもある。今後さらに、利用者が食事を楽しめるような雰囲気づくりや支援に、工夫を重ねていかれてほしい。
			(外部評価) 冷蔵庫の食材をみながら、調理専門職員が献立を決めて食事をつくっておられる。利用者の好みを聞きながら献立を決めることもあり、バラ寿司や丼等のリクエストがある。魚は、地域の魚屋さんに注文して、骨抜き等処理された食材が届くようになっている。肉は近くの肉屋さんへ利用者と一緒に買いかけておられる。調査訪問時には、誤嚥の心配がある利用者には、職員が別におじやをつくっておられた。昼食の時間は、1階は利用者がお好きなこともあり、童謡が流れており、2階はテレビが点いていた。食後にご自分の食器を下膳される方もおられた。1食は職員が食べるようになっているが、他職員は、昼食と休憩を兼ねて、別室で食事をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事・水分量に気をつけている。 飲み込みの悪い人には小さく切ったり、トロミをつけて対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事以外にも起床時と眠る前にも必ず口腔ケアをしている。 夜間は義歯の消毒も必ず行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 出来るだけ同じ時間帯に声掛けし、トイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を参考にしながら、声かけや誘導してトイレで排泄できるよう支援されている。利用者の状態に合わせて、出来ることはご自分で行えるよう支援しておられ、車いすを使用する方でも便器への移乗が自分で出来る方は見守りながら支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分量を記入し、どの位飲んでいるかチェックしている。水分やおやつ以外にも毎日のラジオ体操等のレクレーション、入浴後は必ず水分補給を行っている。水分を摂取できない利用者にはゼリーやヨーグルトに変え工夫して提供している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の体調や希望など一人ひとりに応じた対応を行い、ゆっくりに入浴してもらっている。浴槽に入る事が出来ない人はシャワーだけでなく足湯をして暖かくしている。	
			(外部評価) 週2回、午前中の中の入浴になっているが、入浴がお好きな利用者は、希望で毎日入浴する方もいる。冬至にはゆず湯を楽しまれた。移動可能な手すりを浴室入口に設置し、車いすを使用する方も、つかまりながらご自分の力で浴槽まで移動できるよう支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人のリズムに合わせて入眠できるように支援している。安眠できるよう室温、湿度、照明などの調整を行っている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの病状を把握し、薬もその都度確認し、薬の変更などに注意し、服薬間違いのないように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりのADLや好みなどを理解し、それに合った家事を手伝ってもらっている。 毎日のラジオ体操や散歩を行い、花を見たり虫の声にびっくりしながら楽しみを感じ喜んでもらえるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の体調や気分に合わせて、散歩・花見・ドライブ・買物などに出かけられるように支援している。 家族との触れ合いも大切にしている。家族と快適に外出出来るように支援している。帰宅後も混乱が起きないように見守りを行っている。	
			(外部評価) 今年の初詣には、事業所の車で近くの八幡神社へ、何名かずつに別れて、全員が参拝された。利用者の希望で、近くの喫茶店でコーヒーを飲みに行かれることもあり、利用者は「喫茶店で飲んだら美味しい」と喜ばれたようだ。外出先で大判焼きを買って、外でおやつを食べることもある。	外に出るととても喜ばれる利用者も多く、職員は、もっと買い物に行ったり、季節のお花を見に行く機会を増やしたいと話しておられた。利用者から希望を引き出し、ご家族や地域の方達の協力を得ながら、支援を工夫されてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理のできる利用者は買物の時、自分で支払いを行っている。 出来ない利用者は一緒にレジに行き、支払いが出来るよう見守りを行い支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 個人の携帯電話を持っている方は携帯電話で家族とお話して。 その他の利用者は本人の申し入れがあれば事業所の電話を使用したり、手紙のやり取り等できるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者同士で雑談したり、利用者本人の意志を尊重し、貼り絵・塗り絵等をして過ごせるように工夫している。 庭に花を植えたり、壁の飾りを作って、季節感を出すようにしている。	
			(外部評価) 玄関や台所には、花を飾っておられた。台所、食堂には大きなテーブルがあり、昼食後には利用者のひとりがお好きな演歌を聞きながら、ぬり絵を楽しんでおられた。畳の部屋もあり、赤鬼、青鬼のお面やお雛様が飾られており、利用者の方が寝転んで休んだり、洗濯物を職員と一緒にたたむ等される。廊下の照明は、和紙のカバーで明るさを調整されている。加湿器を2台設置し、乾燥しないように気を付けておられる。台所から見える中庭には、観葉植物やラベンダー等を配しておられ、利用者が水やりをしてもらえることもあるようだ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングで過ごす事が多い利用者は、一応席は決まっているが自由に移動して利用者同士でお話やゲームをしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 愛用の家具を持ってきてる利用者が多く、仏壇を持ってきている利用者もいる。 テレビやラジオを持ってきて、居室でゆっくり過ごす利用者もいる。	
			(外部評価) 居室は、畳の部屋とベッドの部屋があり、選べるようになっている。利用者は、ご自宅から箆箆や椅子、ぬいぐるみを持参されていた。お花の好きな利用者の部屋には、ご家族が買って来られたお花とお守りが大切に飾られていた。仏壇を持ち込んでいる利用者には、職員がしきびを用意されたり、利用者が毎日お水を替えておられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下も広く、リビングやトイレも動きやすいスペースを取っている。 ゆったりと歩行練習したり、安心、安全に自立した生活を送れるように支援している。	